



ボランタリーネイバース

ウィズコロナのまちづくり活動と ネイバースへの期待



三島 知斗世 (VNS 副理事長/中部圏地域創造ファンド PO)

総会アフタートークでは、地域コミュニティ活動へのコロナ禍の影響について話題が集まりました。それに伴う現状調査やオンラインツールに距離感を持つ人たちをつなぐ方法の開発、ツール活用の成果と課題に関する情報発信など、ネイバースへの期待も語られた議論をご報告します。

地域活動継続への危惧と、地域を超えた情報交流の動き

- 昨年今年と、地域ではお祭り、盆踊り、運動会ができていない。皆さんが定年後も働き続けるようになり元々無理が出てきたところに2年間でできない状況が生まれた。会計や運営規則等のあいまいさがリアルな場では納得できても、デジタルでは難しい状況が生まれている。他方、NPOには自発的に組織づくりに取り組んだノウハウがある。支援センターを媒介して、自治会活動に運営ノウハウや自発的な活動の在り方を伝える、事務局業務を請け負うことを仕事として行い、自治会活動の再生をお手伝いするようなことはできないだろうか。
- 自治会活動は、「やらなくてよくなって楽になった」「やらねばならぬことを続けていこう」の2分化が起こっているが、楽になったに流れる方が大半。そんな中でも、アイデアを出しながら地域のことを情報交換する「オンライン公民館」の取り組みが行われている。オンラインによって区域を超えて他の自治会・地域活動の情報が共有できるようになった。そこから行政が、お互いできること/できないことを整理したり、相互協力関係をつくることもできる。また、山車の組み方、お祭りの舞を子どもたちに伝えやすいようにノウハウを整理している地域もある。このように、コロナ禍で、地域を超えた情報交流が活発化し、活動の本質を問い直し、新しい組み換えを考える機運も生まれている。



今後の活動を考えるベースとなる活動実態やニーズの調査を

- 防災訓練ができなかった代わりに、地元の弥富市で「自主防災活動アンケート調査」を行った。同一市内でも自治会ごとに活動はバラバラであり、今後どうしていくかを考える場合、調査が必要。NPOが調査を受託して実施できるとよいのではないかな。
- あま市のコミュニティ交流会で、地域活動をどうしていくか、中学生以上の住民全員に看護師さんがニーズ調査した実践が報告された。年代別になるとニーズの違いも明確になり、それを分析して地域活動を考えていく必要がある。こうした調査の実践をネイバースが行うとよいのではないかな。

オンラインツールをどう位置づけるか、現場が考えられるような情報提供が重要

- オンラインは会議にも参加しやすく楽だが、その条件のない人とのコミュニケーション落差が広がっている。従って、今あるものの拡大を考えるのではなく、今までつながれなかった人を新しい技術でどうつなげるかが重要なテーマと考えている。ネイバースには、従来のコミュニケーションツ

ールの活用支援に加え、新しいコミュニケーションのあり方、新しいツールの開発、情報収集、紹介の取り組みを期待したい。

●名古屋市の植田東学区では、回覧板に代わるツールとして、スマホアプリ「結ネット」をモデル町内会で試用し、情報伝達の改善・工夫にチャレンジしている。60代の比較的若い世代が導入をけん引しているが、物理的もしくは気持ちの上で導入できない人が取り残されないよう気を配って取り組まれていた。こうした開発は試行錯誤を積み重ね改善されるもの。ネイバーズのスタンスは、開発そのものというより、そうしたツールが市場にのってくるような実験の場を提供する、フィードバックをするなどのコーディネートする役割だと思ふ。オンラインやSNSは、コロナで一気に導入する大義名分ができたが、反対側に振り子がふれる時期もきて、そのまた反対もくる。そうした中でSNSでできないコミュニケーションや情報弱者への配慮なども考えられ、徐々に重心が変わっていくのかと考える。



閉会あいさつ VNS 理事長・中尾さゆり

ネイバーズも20年を迎え、環境や時代の変化をうけて役割をどこに置くか考えなおす時期ととらえています。情報が普及しそれぞれの現場の専門性が高まる中で中間支援組織としての役割を見出すのは悩ましい…。しかし、今日の皆さんのお話から、現場の知恵・経験がある中でそこだけでやりきることが難しい部分を集めて中間支援組織で取り組む。一つの地区・市町だけではなく県域での取り組みを担う、そこでの専門性を積み重ねていく役割が見えてきてきました。

ご意見をうけて理事会等で議論し、取り組みを進めたいと思います。それぞれの得意を活かしてよい社会づくりに努めていきますので、引き続き、ご協力ご参画をお願いいたします。



情報クラブ…テーマ型のまちづくり活動では

1) NPOが活動と雇用を継続するための学習会&相談会を実施中

VNSは、休眠預金によるREADYFORの新型コロナウイルス対応緊急支援助成を受け、NPO向け学習会・相談会を実施中。8月以降も継続しつつ、専門家とチームを組み個別支援も行います。

2021.

7.30 金

10:00 ~ 12:00

定員 15名

コロナ禍での労務問題への対応



講師 **加古 朗さん (社会保険労務士)**

●主なトピック

- ・在宅勤務にかかわる労務環境の整備
- ・休業補償などの労務の課題に対して活用できる制度解説
- ・コロナ禍でメンタルの不調を訴える職員が出た場合どう対応する必要があるか。
職員の職場復帰に必要なこと、復帰の環境をどのように整えるか

2) 中部圏地域創造ファンド(CCF)の助成採択団体から見たオンライン活用の効果と課題

休眠預金・新型コロナウイルス対応緊急支援助成団体の調査と団体間の創発会議からまとめました。

	オンライン活用の効用	オンライン活用の課題
支援活動	事業参加者、相談者が増大/全国から専門家に参加してもらえる/相談者が気軽にアクセスすることが可能/支援者同士の広域的ネットワークが構築できる/企業、若者にも支援の輪が拡大	被支援者のオンライン整備/個人情報の管理/食材配布などオンラインではできない活動への対応
組織運営	個人の都合に合わせた勤務体制、業務実施が可能→支援者の増加/会場費、交通費が節約できる/日程調整が容易/情報の共有が手軽	オンライン環境の整備/情報共有が難しい面もある/公私のタイムマネジメント

